

「 す い し ん い ん オ ン ラ イ ン セ ッ シ ョ ン 」 Q&A

第1回ウェビナー（10月28日）で寄せられた質問への報告者の回答&パネリストからの関連情報

報告テーマ：本人の声を起点に暮らしと地域を共に作ろう

報告：和歌山県御坊市 認知症地域支援推進員 谷口 泰之 さん 御坊市市民福祉部介護福祉課地域支援係
丸山 雅史 さん 御坊市総務部総務課庶務係(異動後も推進員)
玉置 哲也 さん 御坊市在宅介護支援センター藤田

質問内容	質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
推進員同士の関係性	1 推進員同士が仲良く楽しそう。交流やチーム作り、役割分担は？	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を明確に決めているわけではない。得意なところを自分たちでやるスタンス ・御坊市から委託包括へ、「推進員としてこういう活動をしてください」というお願いはしていない。「推進員として●●をやってください」と市から言うと、活動の幅が狭められるのでは。お願いするわけではなく、推進員が自由にできる事を尊重する ・ただ、市内の推進員が全員同じ方向に向かっているかというところではない部分もあるが、無理に同じ方向を向かせるのではなく、それぞれの意見や考え方も尊重しながら、お互いできることを共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「公平性、一地区だけ伸ばしてはダメ」と言われるので、その所は推進員という立場を使って、まずは自分の所属している地区でモデルケースとして進めて、それを少しずつ自然体で、他地区の包括も巻き込んで進めていくような、時間はかかるが地道なやり方をしていくのが、委託推進員の動き方と思っている（燕市*市に出向している推進員） ・街のあらゆる立場の人を、新たなステークホルダーとして招き、一緒に何かできないかと、葬儀屋や結婚式場とのつながりができた。いろいろな人たちが自分の気づかないところで助けてもらい、自分達ができることの出し合いが出来る街に発展した（恵那市）
	2 玉置さんと谷口さんは日ごろは認知症地域支援推進員としてのかかわりだけなのですか？例えば虐待対応などでも、かかわりがあるのですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は、主に包括⇄ケアマネという関係もあり、ケースの中で虐待があれば一緒に関わる。 ・推進員としての関わりに加えて、生活支援コーディネーターでもあるのでその関わりもあり。ただ、その線引きははっきり決めていないこともあり、シームレスに連携していくように心がけている。 	
	3 周りの市の推進員との交流はどのように？	<p>周りの市町とは、お互い同じ思いを持っている推進員とは日ごろから情報共有してお互いの事業等に参加したりしているが、正直、そうではない推進員もいるので、そういう人たちには声掛けはしながら、無理に同じ方向を向いてほしいというような呼びかけはしていない。</p>	
	4 2～3年で推進員が交代してしまって、短期間でつながりや活動が蓄積できない	<ul style="list-style-type: none"> ・異動した他の部署でも、推進員として活動できる環境を作っている。異動してからも推進員と名乗っていて、推進員としてカウントできるよう、周りの理解と環境を作っている。 ・認知症条例をつくった目的は、ここにもあって、「担当者」でまちづくりが変わるのではなく、まちづくりの理念を条例に掲げることによって、担当者が変わったとしても、目指す地域は変わらず取り組める。 	
連携・ネットワークについて	5 谷口さんは事務職とのことですが、認知症施策等を担当されていると思いますが、推進員としてはどのようなかかわりをされているのでしょうか。教えていただければと思います	<ul style="list-style-type: none"> ・（谷口さん自身は）事務職であり、包括にしながら三職種のどれでもなく、相談業務をしている ・行政職員なので、地域に出ていきやすい 	
	6 羨ましいくらい、アクティブに活動されていますが、他の部署や関係者と上手く連携を図るコツは何ですか・・・？	<ul style="list-style-type: none"> ・他の事業所や在宅介護支援センターのスタッフと好事例を紹介する ・「ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト」の取り組みをきっかけに縦割りが解消された。委託の推進員から行政に声掛けがあった。関係機関（農林水産課・JAなど）のニーズを聞き出す。 ・よく、行政や専門職は「巻き込む」というが、巻き込まれる側は負担を感じる。巻き込むより「巻き込まれる」という視点で関わったほうが良い ・本人の声を集めた、「本人の声シート」を3年前に作成し、包括の職員だけでなく、同じ部署の職員全員が閲覧できるようにしている ・何もない所から「地域づくりを一緒にやりましょう」と言っても、地域づくりに繋がっていない。（地域の）一人ひとりとかかわりから、いろいろな資源と関わって行くことが推進員としての役割だと思う 	

質問内容		質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
	7	兼務なので、役割を果たしている実感が無い。包括の他のスタッフと何が違うのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり「推進員としての役割」にこだわらなくてもいいのではないかと思う ・「推進員としてやらなくては」ではなくて、自分の得意な出来ることで「地域のつながりを作っていく」ことが、推進員の役割だと思う ・（玉置さんは）生活支援コーディネーターとケアマネ、管理者を兼務している。ケアマネのケアプラン業務で、推進員活動が活かされている ・『自分一人でなにかも』ではなくて、それぞれの役割を自分たちで自覚しながら、自分のできるところをやっていく 	
	8	生活支援コーディネーターとの役割分担やつながり方は？	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターだから、推進員だから何かをしてください。というものを渡していない ・生活支援コーディネーターと推進員を兼務しているからこそ、認知症当事者やご家族に社会資源を紹介しやすい 	
連携・ネットワークについて	9	郵便局、銭湯が協力的なのは日頃からのつき合い？風土？	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便局の看板について、確かに行政推進員の役割だと思うが、自分達（行政）の声として郵便局に伝えても動いてはくれなかったと思う。（認知症の）本人が困っているという視点があって、本人目線で動画を撮って実現したことである。郵便局との関わりは『委託推進員だからできない』であっても、行政の人に「本人がこのようなことで困っていましたよ」と伝えることも推進員の役割だと思う ・「一人の支援をしていると不公平だ」と言われ、行政は公平であるべきだと思っていた時期があったが、「一人の支援をしないことは、誰一人の支援もしなくなることだ」「一人の市民から関わったことを、全市民に共有いくことが必要である」と言われたことがある。郵便局の事も看板がない事で困っている人が他にもいるのではと思った ・御坊市には郵便局との協定があるので、情報共有した。それ（郵便局マーク取付）までは、協定を結んでいながら、一度も会議をしたことがなかったが、これをきっかけに情報共有するようになった 	<ul style="list-style-type: none"> ・街のあらゆる立場の人を、新たなステークホルダーとして招き、一緒に何かできないかと、葬儀屋や結婚式場とのつながりができた。いろいろな人たちが自分の気づかないところで助けてもらい、自分達ができることの出し合いが出来る街に発展してきている（恵那市） ・市の方が、「推進員はいろいろな所とつながっていた方が良い」と配慮し、金融機関や郵便局長が集まるような機会に出向かせて、きっかけ作り・ネットワークづくりをしてきた（燕市*市に出向している推進員）
	10	会計年度任用職員で推進員をしています。担当の行政職員さんは業務が忙しい中、推進員の企画ややりたいことをサポートしてもらっています。市には高齢者福祉計画がありますが、認知症に関して市の方向性をなかなか示してもらえません。（1つ1つの施策の方向性はありますがつながっていません。推進員で提案してますが浸透してないです）みなさんのまちの方向性はどんな時にどんな人が作られているのでしょうか？	御坊市では認知症施策条例を施行し、その理念を達成するための「認知症施策推進基本計画」を策定中。それぞれの施策が「誰のため」「何のため」に実施するのかを行政と推進員で共有しておくことが大事。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の条例を作ろうとして作ったわけではなくて、認知症の人と一緒に街を作らないと、どうしようもないでしょうということ。認知症の人がいての地域だからという思いがあったのではないかと（千歳市）
	11	本人の声を聴く方法は *訪問や電話をしても出してもらえない地域性がある *日常的に接している人は、むしろ気づけない	<ul style="list-style-type: none"> ・本人ミーティングを開催しようと試みたが、なかなか人が集まらなかった。しかし、日頃の業務で、何気ない言葉の中から声をたくさん聞いているので、記録に残して活用すれば、本人の声として伝えることが出来る*本人の声シート【連携・ネットワーク-6】参照 ・本人ミーティングの開催が難しくても、認知症対応型デイサービス等に行くと、毎日認知症の本人に会うことができ、話も聞くことができる。そういうところに繰り返し訪問して雑談等の中で出た声が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームに行くと一緒に時間過ごす中で、認知症のご本人から声を聞く（藤枝市） ・認知症当事者の視点で、安心して出かける街について聞く為、日課の散歩に同行して街と一緒に歩いてみた（藤枝市） ・介護保険申請時にご家族と来訪があった時に話を聞く（藤枝市）
本人の声の集め方	12	一緒に入浴…業務時間内？	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の昼間にサロンが開催されていて、業務として参加している ・形式上は、地域包括支援センターが運営している ・事業費やお金があるわけではないので、自己負担（ポケットマネー）で参加している。当初休暇を取って参加するつもりだったが、上司から却下され、業務として参加となった ・認知症のご本人と入る必要事が必要になった場合、もし事故があった場合に責任が問われるので、業務として参加している（御坊市担当課長） 	
	13	本人の声をもとに自由にやりたいが、何かあった時の責任は？	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課長が、推進員を信頼して任せている。何かあった時は、課長がサポートする 	
直営・包括の関係性	14	包括は直営ですか	<ul style="list-style-type: none"> ・市の直営が一か所市役所にあり、報告者が包括のスタッフとして勤務している ・在宅介護支援センターを包括のランチとして日常生活圏域に一か所ずつ配置し、そこにも推進員を1名ずつ配置している 	

質問内容	質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
直営・包括の関係性	15 行政の立場だからできたのでは？	<ul style="list-style-type: none"> ・行政だから色々動きやすいというのはある。地域に出ていきやすい ・ネットワークを活かすことで、行政じゃなくても出来る事がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託されているから好きに動ける部分もある。委託だからできる事と行政だからできる事を、お互いができる事をすり合わせている（千歳市） ・やりたいことを出来る人とつながる必要がある。こちらが感じるメリットと、相手側が感じるメリットのすり合わせを行い、双方がつながることにメリットを感じる関係（win-win）を作っていく必要がある。（千歳市） ・市の方にアポを取っていただき、同行していただくといった工夫をしてパイプを作った。その後は、自分でこまめに連絡をして通った（特に警察署の時）（燕市*市に出向している推進員） ・市の担当者（課長）に話し合いに参加してもらう（燕市*市に出向している推進員）
	16 市からの業務委託について	<p>御坊市から委託するにあたって、「推進員として、こういう活動をしてください」というお願いは一切していない。認知症カフェやキャラバンメイト活動等の委託の内容をしていない。「勝手にやってください」「玉置さんも好きにやってください」としているので、業務中に畑をやる事が出来る。それが地域の居場所になっている。あえて居場所づくりをしているわけではないが、趣味がそういった形に繋がった。</p>	
事業所・所属部署の関わり	17 上司が積極的になるために心がけていることは？ →御坊市より規模の大きな地域で、現場の動きや本人の声を届けられるか。現場に来てもらえればいいが、来れない場合にどう届けるか（市民、包括支援センター職員やセンター長など）	<ul style="list-style-type: none"> ・急に変わるものではなく、積み重ねだと思う ・現場（イベント・認知症カフェなど）に出て参加してもらう →「ごぼう総活躍のまち講座」というのをやっており、そこで使用する資料の中に、認知症本人の活躍の様子を内容に入れて伝えている *「御坊総活躍の街ごぼう総活躍のまち講座」とは・・・従来の認知症サポーター養成講座ではどうしてもネガティブなイメージが強く残ってしまうことを懸念し、御坊市独自の「本人の活躍」にスポットを当てた研修を企画し、ときには本人たちとともに講座に出向いている。 	
地域活動 (農園・サロン)	18 ドリーム農園について	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネとして関わったご家族から「畑をやらないか」と話を受けて始めたこと。 ・苗などの資金を市から出していることはなく、地域の方々から提供されている。逆に市の方で予算化して事業とやってしまうと、いつかは終わってしまう。長く続けるために、参加者が「自分たちの畑」という意識を持つことが大切。 	
	19 ドリーム農園 当事者の方の参加人数は？参加するために送迎やどうしていますか？	<p>毎回、認知症の本人、介護事業所スタッフ、地域住民等で約20名程度の参加。送迎は行っていないが、デイサービスの外出レクとしてスタッフと一緒に来られる方もいる。</p>	
	20 ドリーム農園やホットサロンは、認知症の方のみ参加されていますか？ 認知症に限定しない集まりの方が、ニーズが多い場合がありますが、どう考えますか？	<p>認知症の方のみとは限定していない。誰でも参加できる場所に認知症の方も安心して参加できる空間を意識している。</p>	
	21 畑作業など保険はどうしてますか？	<p>農園の運営側としては保険はかけていないが、デイサービスの外出レク等で来る際は事業所の判断。あと、地域住民や本人がご自身で参加される場合は、保険加入等は自己判断と自己責任と伝える。</p> <p>そこには本人から「リスクを奪われた」という言葉を聞いたこともあり、何もかも「リスク管理」という名のもと、本人の行動を制限せず、「本人本位」を尊重。ただし、最低限のリスク管理は心がけている。</p>	
	22 集まりやサロンの代表問い合わせ先は住民ですか？	<p>ドリーム農園の問い合わせは玉置、ホットサロンは地域包括支援センターとしている。</p>	
23 御坊市の中に認知症家族会はありますか？	<p>ホットサロンは当初「家族のつどい」としてやっていたが、今は本人も参加するようになっている。家族会は組織していない。</p>		
サポーター養成講座	24 これまでの話を聴いて、推進員はご本人の声・望む生活を代弁していく役割も重要だと改めて認識します。この点を踏まえ、現在の認知症サポーター養成講座のあり方も問われるのではないかとありますが、御坊市の皆さんはサポーター養成講座について特別配慮していること活用の仕方などはありますか。	<p>御坊市は、サポーター養成講座は現在、休止している。その理由は、今までやってきたサポーター講座のアンケートの9割近くが「認知症は怖い病気」「認知症になりたくない」という声があった。各地域でオリジナルに作り変えてやっているかと思われるが、本来それは認められず、オレンジリングを配れないはず。御坊市は現在オレンジリングを配っていない。条例の理念を伝えるためもあるが、御坊市独自の「ごぼう総活躍のまち講座」を企画し、地域で展開している。</p> <p>その講座では、疾患の部分はほとんど説明せず（ここがネガティブな印象を与えている）、本人の活躍や本人の視点から変わる認知症バリアフリーのことを伝えている。</p>	

質問内容		質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
活動のポイント	25	推進員活動のポイントがあれば助言ください。	・本人の視点になって街をしてみる（動画や画像で共有する） 仲間同士で得意分野を活かした活動や情報発信を行うように声を掛け合う	・委託の推進員として、例えば一地区からでも始まれば広がっていくので、時間がかかっても地道にやっていくことが、委託推進員の動き方だと思っている（燕市）
地域性	26	本人が『認知症』である事を地域が知っているのとそうでないのでは、本人への対応が違うかと思えます。皆さんの所ではどうでしょうか？	地域が正しく理解をもって知ってくれる場合と、知っても理解が乏しく本人にとって良くない環境の場合がある。 認知症ということを知っていても、これまでと変わらない関わりや付き合いが大事だと考えている。	
エピソード	27	上手くいかなかったこと、失敗も聞きたい。 どう乗り越えた？	・失敗をたくさんしてきたが、誰の視点で失敗だったのか、と考えている。自己満足にならずに失敗したのなら、その事業が元々必要だったのか考える必要がある。本人にとって成功だったのか失敗だったのかという視点が、本人の声を起点に、と考える上では必要と思う	・事業を始めようとしたときに、上司から「計画に入っているのか」と言われてしまった。その為、地域の団体に仕事を振って、市に後援を依頼してもらい、推進員の立場として後援するということがあった（恵那市） ・生活支援コーディネーターや社協に協力を依頼し主体的にやってもらい、推進員は手伝わせてもらう。その中で、推進員としての意見を言っておく。推進員が表立って頑張らなくても、やれることは意外とあるのではないかと（千歳市）
まとめ	28	Q:このセッションのコメントをまとめていただけると嬉しいです。 (最後のまとめ部分について全員からコメント)	このようなオンラインでの開催はほとんど経験がなく、第1回ということでもうまくいか心配であったが、無事に開催できてほっとしています。 コロナ禍がすべてマイナスになるのではなく、新たな交流の手段としてオンラインでの開催を様々な角度から検討することができました。 御坊市ではとにかく「本人の声・視点」の重視を意識しながら地域づくりに取り組んできたつもりではあるが、まだ市全体にこの思いが普及できていくわけではなく、認知症の本人自身にも「認知症になってしまったら終わり」等の先入観が強いです。 これからは、認知症の人もそうでない人もこの先入観を払拭していくことが必要だと感じています。 パネラーとの意見交換や、セッション終了後に寄せられた全国の推進員の皆さまからの声は、私たちのこれからの活動において原動力にもなります。 コロナ禍が終息したら、またリアルに皆さんとお会いできればと思うが、いつでもどこでも繋がれるオンラインでの交流も続けていければと思います。 この度は、貴重な機会をいただきありがとうございます。ありがとうございました。 今後ともどうぞよろしく願っています。 御坊市認知症地域支援推進員 谷口・丸山・玉置	・御坊市の動画を、藤枝市地域の推進員と視聴して意見交換する中で、認知症の人たちがやりたいことが出来ているのだろうか、という話になった。もっとデイサービスや現場の声をもっと聴きながら進めていきたいと話が盛り上がった。自分達も楽しみながら、当事者と一緒にやっていくことが大事（藤枝市） ・このすいしんいんセッションも市内の推進員と一緒に視聴をして、みんなで活動につなげていきたい（藤枝市） ・行政の立場と包括の立場で、一緒に訪問したり事例について考えたり、お互いの強みを生かしていきたい（藤枝市） ・当事者の声を聴くことも大事だが、その声を広げていくことも大事だと思った（燕市） ・「その人が行きたいところ、やりたいことを本人に聞いてみたらそうですか」問いかけてみる（燕市） ・大きく認知症の人の声を聞きましようではなく、あなたのそばにいる、その方の声を聴いてみませんか、という形で当事者の声を聴くということを広げていく（燕市） ・初期集中支援チームの方に依頼して、本人の声をフィードバックしてもらっている（恵那市） ・頑張り過ぎず、ゆるく、面白く活動出来たらよい（恵那市） ・当事者の声というのは、何気ない声を聞いてというところで、本人ミーティングを始めようところに意識が言っていたが、御坊市の話を聞いて、普段から声を聞いているなど気づけて、御坊市から勉強になった（千歳市） ・千歳市（吉田・作田）でも得意・不得意を分担し合っていてやっている（千歳市）

視聴した人から寄せられた情報（主なもの）

1	御坊市の郵便局とシャンプー.リンスの事例は、地域でお話するときに使わせて頂いています。共生社会の説明がしやすいです。
2	委託で活動しています。推進員の仕様書の他、「誰かの収入に関わる内容は事業として認められない」という行政の見解から、地域との活動がストップしています。自由で（行政側の見方での）成果を求めない御坊市のあり方を、すごいなと思いました。
3	これまでの話を聴いて、推進員はご本人の声・望む生活を代弁していく役割も重要だと改めて認識します。
4	近日中に、認知症初期の方を数名集まってもらって本人ミーティングのようなことをしたいと考えています。
5	認知症サポーターステップアップ講座の受講者で地域で活躍したいと言ってくれてる方の活動先をずっと考えていました。今日話を聞いて、そうではないことに気づかされました。今後は認知症の方の声を聴きつなげることに
6	今後は認知症の方にも耳を傾けていきたいです。ありがとうございました。
7	推進員は、担当ケアマネとして受け持つことはしていないので、ケアマネに引き継ぐと、遠慮もありませんが継続支援にならないところがあります。家族会などにお誘いしても来られなくなります。
8	元気をいただきました。 すぐに何かができるわけではないですが、個別の支援を通じ、周りの人とつながりあっていきたいと思っています。